

令和2年度 第2回下呂市総合教育会議 議事録

1. 開催日 令和2年12月23日(水) 開会 午後3時 閉会 午後4時

2. 開催場所 農事センター 1階会議室

3. 出席者

(1)構成員

市長 山内 登
教育長 細田 芳充
教育委員 小口 晃生
教育委員 富永 京子
教育委員 河尻 明子
教育委員 細江 洋一郎
教育委員 三木 朋哉

(2)市職員

健康福祉部健康医療課長 森本 千恵
市長公室市民活動推進課課長補佐 古田 哲也

【市長公室事務局】

市長公室長 野村 穰
市長公室企画課長 大池 隆之
市長公室企画課主査 富士井 美佳
市長公室企画課主査 中島 大樹

【教育委員会事務局】

教育部長兼教育総務課長 吉田 修
教育部学校教育課長 野尻 康之
教育総務課課長補佐 細江 実

4. 傍聴人 0人

5. 議事の要旨 別紙のとおり

○大池企画課長

皆様こんにちは。本日は、大変お忙しい中、お集まり頂きまして、誠にありがとうございます。定刻少し前ではありますが、令和2年度第2回下呂市総合教育会議を開催致します。この会議の後には、引き続き定例教育委員会が開催されると伺っておりますが、それまでどうぞよろしくお願い致します。私、本日司会を行います企画課の大池と申します。どうかよろしくお願い致します。本日の出席者の紹介は、お手元にお配りしております名簿にて、ご紹介に代えさせていただきますのでよろしくお願い致します。なお、本会議につきましては公開が原則となっております。議事録を作成して公開することとなりますので、ご理解をお願い致します。まず、はじめに市長がごあいさつを申し上げます。

○山内市長あいさつ

こんにちは。本日は大変ご多用の中ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。県内、全国の情勢もコロナ第3波襲来により岐阜県もかなり悲惨な状況になっており、下呂市もいつ第3波が押し寄せてくるかわからない状況であり、感染拡大防止を図っているところでございます。これに関して我々大人の世界も大変ですが、子どもの世界となる学校・教育現場もご苦労なさってみえます。また、これは将来にも亘って子どもたちの教育がどのような方向に向かっていくのかということも、我々の責任としてしっかりと考えていかないといけないという思いであります。本日は1時間という限られた時間ではありますが、皆様方から忌憚のないご意見を頂きたいと思っております。今回は「教育大綱の実現に向けて」というテーマで進めたいと思っております。是非とも有効で中身のある会議にしたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

○大池企画課長

続きまして、教育長よりごあいさつをお願い致します。

○細田教育長あいさつ

こんにちは。第2回下呂市総合教育会議ということでどうぞよろしくお願い致します。今日の議題「下呂市教育大綱の実現に向けて」ということで、森本課長と古田課長補佐からは取組みの進捗状況ということでご報告頂けることになっておりますが、どうぞよろしくお願い致します。後半は意見交換となっておりますが、今ほど市長よりお話がありましたが、今年はコロナの影響で私自身も今まであまり考えてもみなかったことまで考えざるをえない状況となり、子どものことや教育のことを振り返ったり考え直したりすることがありました。これからも、下呂市の教育の方向性については教育大綱をもとに教育委員さんの思いや願い、ご意見等を伺えたらと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

○大池企画課長

ありがとうございました。それでは、早速議題に入りたいと思っております。ここからの進行は、この会議の会長である市長にお願いしたいと思っております。

○山内市長

それでは議長を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。それでは早速議題に入りますが、本日の議題は「下呂市教育大綱の実現に向けて」ということで、前半は下呂市教育大綱の各基本方針に関連する取組みの中から基本方針2に該当する「減塩の取組みについて」と、基本方針3に該当します「コミュニティ・スクールの概要・事例」を各担当課からご報告させていただきます。その後、この2つの取組みについてご協議を頂きたいと思います。また、後半はその他の施策についてのご意見や教育大綱の具現化に向けた皆様の思いや望まれる施策をご協議頂ければ幸いです。では、まず「減塩の取組みについて」を健康医療課の森本課長よりご報告をお願いします。

○森本健康医療課長

健康医療課の森本でございます。着座にてご説明させていただきます。私からはお手元にありますA3の資料「下呂市減塩元気大作戦展開中」をもとに、下呂市教育大綱の基本方針2に該当する減塩に関しまして、下呂市全体の減塩の取組みについてご説明したいと思います。資料左側については、「下呂市の実態」ということで高血圧の実態や脳血管疾患受療率の推移等が記されております。中央に「下呂市減塩元気大作戦」の取組み内容を、そして右側にはその成果を載せております。それでは最初に下呂市の実態から説明させていただきます。左側の表にあるのが下呂市の高血圧受療率の推移でございます。県内の順位はワーストの順位で示されておりますが、非常に多くの方が高血圧で受診している実態がございます。その下には高血圧に起因する脳血管疾患受療率の推移です。こちらの県内のワースト順位を見て頂きますと、平成25年、26年には県下でワースト1位、つまり比較すると脳血管疾患で受診している人が一番多いということになっております。また、こうした実態から、その下には3歳児健診での尿中塩分測定結果を載せております。中央に線がありますが、基準値以内のお子さんが16.6%ということで、80%以上のお子さんが塩分の取り過ぎになっているということでもあります。なぜ尿中塩分の測定をするのかということですが、人間の体の中の塩分は0.9%で統一されておりますので、これが1%になっても0.8%になっても人間は生きていけません。そのため接種した塩分はすべて汗と尿から排出される仕組みになっております。そうしたことから、塩分を摂った分だけ尿で排出されるからよいと思われがちですが、腎臓で余分な塩分を尿とともに排出する際に血圧を上げる必要があるため、子どものうちから腎臓をよく使用している実態と結果から、高血圧の方や脳血管疾患が多いという実態が見えてきました。そのため、脳・心臓・腎臓の血管を守るため、「下呂市減塩元気大作戦」ということでライフサイクルにおける減塩の取組みを展開しております。中央の表について、妊娠中から40歳以上までの減塩の取組みと減塩食品を使った推進、そして全体的な取組みをまとめてあります。健康医療課では妊娠すると母子手帳の交付をしておりますが、そこから減塩の取組みということで減塩食品の紹介等しております。また、乳幼児健診においても食事摂取量の指導や尿塩定量検査の実施をしております。また、5歳児（園児）の尿中塩分測定の実施、こども園での給食の塩分減少に取り組んで頂いております。また、小学校や中学校になると学校の養護教諭や栄養教諭と協力しまして、学校給食の塩分減少はもちろんですが、毎月17日を減塩の日と国が定めておりますので学校給食のメニューに「良塩（よしお）くん」を掲載し、子どもたちにも減塩の取組みを

PRして頂いております。また、中学3年生の尿中塩分測定や生活習慣病の血液検査の実施や今年度から小学6年生から尿中塩分濃度の測定を行い養護教諭から健康教育を実施して頂いております。また、高校・職域・特定健診というところで、すべての健診には尿中塩分測定を加え、自分がどれだけ塩分を摂取しているのか目で見えるような仕組みや、減塩商品を購入できる環境づくりということで、一番下に記載してありますが、「下呂市減塩推進協力店」を募集し26店舗認定しております。また、毎月14日から20日を下呂市減塩週間と定め、減塩の取組みの強化を図っております。資料左下のとおり食の関係者や食の製造や販売の関係者、そして教育の関係者で構成される、「下呂市減塩推進委員会」を組織していろいろな取組みをしております。隣の写真は昨年実施しましたG3フェスタでの様子と栄養教諭による学校での減塩教育の様子です。このような行政と民間によるライフサイクルに通じた定期的な取組みの成果が資料右側の表となります。最初に、Ⅱ度高血圧の割合ですが徐々に下がっており、平成24年度に6.8%だった割合が令和元年度には2.6%で75人となっております。また、Ⅲ度高血圧の割合についても平成24年度は1.1%だった割合が令和元年度は0.2%とかなり減少しております。なかなかワースト上位から落下できませんが、高血圧受療率も徐々に低下しております。県内の順位についても平成23年度ワースト4位だったのが平成30年度には14位まで下がりました。また、脳血管疾患受療率もワースト1位から平成30年度にはワースト4位という結果となり、こうした取組みによって、高血圧疾患等も少なくなってきております。この取組みは学校でも養護教諭や他の先生方に協力して頂いている状況にあります。以上です。

○山内市長

ありがとうございました。それでは続きまして市民活動推進課社会教育主事の古田先生より「コミュニティ・スクールの概要と事例紹介」をお願いします。

○古田市民活動推進課課長補佐

こんにちは。市民活動推進課の古田です。着座にて説明させていただきます。よろしく申し上げます。お手元の資料とスクリーンでご説明させていただきます。市内の小中学校でのコミュニティ・スクールの概要と事例についてです。ご覧のように学校教育だけでなく、地域の方と協働して教育を行うことが下呂市では当たり前のようにあります。その一つ一つが下呂市の宝であると考えます。子どもたちを核としながら、地域のだれもが教育者・地域と共にある学校づくりの推進をこれまで以上に行っていることを感じております。これらのことをこれまで以上に、そしてこれからも継続して推進していくために、最も重要なことは「共通の願い」の有無です。下呂市には16の運営協議会がございます。「どのようにすると、ひとり歩きできる子に育つか、ひとり立ちするか、しなやかさを身に着けることができるのか、まごころある行動力、思いを声に出せるような力をつけるにはどうしたらよいのか、など」地域・家庭・学校の共通の願いを生み出すため「語らう場」を設定しています。このことを繰り返し行い、当事者意識を高めることが推進していく上で必要不可欠だと思います。「予測困難な社会を生き抜く子どもたちになるように力をつけたい」地域・家庭・学校が一体となって取り組むことで、子どもたちの成長・未来は大きく変わると期待しております。竹原小学校の修学旅行を例にとつ

て話をします。修学旅行を市内で実施することを決める中で、次のようなことがありました。保護者は「下呂市内の魅力存分に味わって、誰にでも紹介できるような子どもになってほしい」、竹原小学校の校長先生は「市内修学旅行をチャンスとして、下呂のよさを自慢できる子に育てていきたい」。保護者の意見と学校の目指す姿が一つとなり、市内の修学旅行が決定しました。校長先生から「下呂市の魅力を学ぶ観光講座を行ってほしい」という要望から、観光課職員も「この取組みを機に、未来の下呂市の観光大使としての自覚を促したい。」と三者の思いが一つになりました。「下呂市の未来を担う地域社会人をみんなで育てたい」と。この取組みのために、市役所として学校や家庭の支援を私たち市民活動推進課や観光課、商工会と連携して行いました。図に示すように、一番外側のうす緑の円の中にありますが、行政として後方支援を行いました。三者が総がかりで子どもたちに力をつけるために行いました。今年度各学校運営協議会内に地域学校協働活動推進員を委嘱できました。その推進員と連携しながら、ネットワークづくりをこれまで以上に構築していくことが必要だと考えます。また、家庭の教育力を支援するために、市として行っている家庭教育の充実を継続して行うことも必要です。今後、市役所各署においてもこの取組みを共有することが必要と考えています。具体的なことでは、各振興事務所の地域づくり担当や教育担当と私たち社会教育主事が連携することです。各種研修会がございますので推進員さん等に参加して頂いておりますが、振興事務所の担当者も同じように研修を受けることができたかと考えております。さらに、この取組みの意図や値打ちなど、また具体的な事例等を見える形で下呂市全体にお届けしたいと考えております。子どもたちに社会を生き抜く力をつけて、そして地域・家庭・学校が明るく元気になるための仕組みがこれだと考えております。ふるさとを感じ、生き生きと輝く姿を今後も求めて、共通の願いの具現のためにふるさと下呂に住む子どもたちも大人も生き生きと輝く姿を創出し、下呂市愛を育みたいと考えます。「参加」から「参画」へ、「協力」から「協働」へ。三者が本物のパートナーになることを目指して、今後も推進体制やネットワークの構築、活動等のコーディネート等を行いたいと考えます。ありがとうございます。

○山内市長

ありがとうございました。それではただ今ご紹介しました2つの取組みについて、委員の皆様から忌憚のないご意見を承りたいと思います。おひとりずつ伺いたいと思いますが、まず自分自身の印象として申し上げます。まず、減塩についてですが、以前も申し上げたかもしれませんが、大変素晴らしい取組みですのでしっかりと継続して頂きたいと思います。明らかに効果が数字として出ておりますので、森本課長にはいろいろなところでプレゼンを行って他の市町でもPRをしてきておりますが、市民全体にも、「これだけの効果があるからもっと頑張らしましょう」ということをイベントや新聞等を利用してどんどん発信できるような企画をして頂ければいいかなと思います。地道な活動でこれだけの成果を上げておりますので、もう少しPRにも力を入れるとよいかと思います。実際私自身も平成27年に警察署長として下呂市に赴任するまでは、血圧は平常でした。130/80ほどで何の問題もありませんでしたが、下呂に赴任した2年間で上が145で下が100を超えました。なぜだろうということで病院を受診したら、お酒の飲みすぎと塩分の取りすぎだと言われました。自分は汗かきですが、下呂が寒冷地であるためか汗をかかないことも要因かと思っております。このようにならないように、小

さい頃から減塩に取り組むことは非常に素晴らしいことかなと思っています。

もう一つのコミュニティ・スクールについて、市民と語る会で小坂地域の高齢者の方が「我々高齢者をもっと使ってほしい。我々は生きがいが欲しい」ということをおっしゃいまして、私自身身につつまされる話でありまして、高齢者の方は人生の大ベテランの方で、ある専門のお仕事については素晴らしい知見と経験をおもちであるはずで、そういった方々が地域や子どもたちの役に立つことができないか、自分たちが生きてきた証を子どもたちに伝えたいという気持ちは年を取れば取るほど感じます。地域と関わりをもちたい高齢者の方々がたくさんいるんだなと感じましたので、地域・家庭・学校の三者とありましたが、家にいる高齢者の方々にコミュニティの中に出ていただくことで元気になるということですので、こういったことも取り組みの中に取り入れて頂ければと感じました。

それでは、小口委員からお願いします。

○小口委員

減塩について、申し訳ありませんが私はあまり意識しておりません。ただイベント等で減塩の試食品やこういったグラフを見ることがありますので、PRを頑張っていってほしいなと思っていますが、市長さんがおっしゃっていたとおり、あともう少しかなと思います。

コミュニティ・スクールについて、自分がずっと感じていることは、まだ始まったばかりですので地域や保護者の意識もそうですが、今まで学校主体でやってきたことが、このコミュニティ・スクールがスタートしたことで少し発想が変わったと思います。例えば、竹原小学校の修学旅行の例を見せて頂きましたが、校長先生はこうしたい、PTAはこうしたい、あくまでも学校がお願いをしてという雰囲気、どうしても学校が主導しなくては進まないということはいけないことだと思います。例えば、馬瀬のトンネルを抜けると米作り金賞の看板が見えてきます。去年も今年も馬瀬小学校が金賞をとっていますが、あの活動では休日に地域の方が子どもたちと一緒に米作りを行っています。学校が主体にはどうしても見えません。このように、最終的には学校が主体ではなく地域が主体となる形になっていかないといけないと思っていますので、地域の方々や推進員の方々がいらっしゃる中で意識を変えていくことが必要だと思っています。金山の4小学校が統合しますが、いいなと思う活動が2つあります。1つは菅田小学校が4月に親子で嶽見桜を見る会を行っています。菅田小学校から嶽見桜のふもとまでゴミを拾いながら行き、そこで地域の方にいろいろなお話しをして頂いていますが、そういった活動があります。もう1つは下原小学校の三峯山登山です。統合することでこういった活動がどうなるのかなと思います。こういった活動を推進員の方々が「自分たちでやってみないか」、「保護者や学校もどうですか」というように声をかけ、地域が主体となってやっていく方向にもっていけば更に長続きすると思います。このように考えると、各学校がそれぞれ行っている活動の中には地域学校協働活動でできる活動がたくさんあると思います。推進員の方々に何をしようかと話し合うことも大切ですが、学校の教育活動以外の活動を地域が主体となってやるという視点で話し合うことができれば、さらにはつきりするのではないかなと思っています。以上です。

○山内市長

ありがとうございました。吉田教育部長、コメントがあればどうぞ。

○吉田教育部長

今おっしゃったように非常によい活動がありますが、統合準備委員会の中で残す行事、金山全体で取り組むべき行事、継続が難しい行事を整理して、新しい学校でどうするか検討して頂いております。現在は学校で取り組む行事の位置づけであります。今後は地域主体で実施するほうが長続きすると思いますので、これから詰めていきたいと思っております。

○山内市長

ありがとうございました。それでは河尻委員、よろしいでしょうか。

○河尻委員

先程ご説明頂きました地域学校協働活動推進員さんについて、先月の教育委員会の中でも委嘱された推進員さんが地域・学校・家庭のコーディネーターの役割として活動されるということで先程講習を受けてみえると説明がありましたが、どのような講習を受けていますか。三者を取りもつような講習を受けてらっしゃいますか。

○古田市民活動推進課課長補佐

現在のところ、全員ではありませんが、子どもとどのように接していけばよいのかといった接し方の講習や企画書の作り方の講習等を一緒に受けて頂いております。

○山内市長

ありがとうございます。それでは、三木委員よろしく申し上げます。

○三木委員

1点目として、子どもを受動的な立場として捉えた時に、子どもが減塩に取り組むというより、やはり食事を作るのは保護者になります。病気になってからじゃないとわからないこともあるので習慣というものはなかなか変わりませんが、子どもは作ったものを食べるという立場であるならば啓発は子どもの頃から大切ですが、保護者に対してより一層必要かなと思っております。健康診断の際にその都度ご指摘頂いておりますが、作る側である親世代がなかなか変わらないという面がありますので、このような取組みを継続して頂けるとありがたいなと思っておりました。

受動的な点でいいますと、ギガスクールの導入について、下呂市も導入を急がなくてはいけないところでありますが、子どもの視力・姿勢の問題を危惧しております。やはり国や市が決めたことを導入することは良い面が多いと思っておりますが、健康面がないがしろにされる環境の中で子どもたちが学習をするということを、導入と同時に考えていかないといけないと考えます。調べてみると、支障がないというデータもありますが、やはり電子黒板を導入したのであればそれでよしではなく、やはり調光の問題があります。電子黒板をどこに設置すればいいのか、窓の光や生徒と黒板の距離、タブレットの使い方等が問題にならない中での導入という

ことで子どもを試験的に使っているような感じがします。やはり受動的な立場である子どもたちに対して我々大人が責任をもつべきだと感じました。

もう1点はコミュニティ・スクール、学校運営協議会、地域学校協働活動についてです。修学旅行が遠方に行けないということで目的地を下呂市内に設定して充実したものにできたということを伺いました。新しいことを発見することも大切ですが、今まであったものをもう一度見つめ直すことも大切だと思います。7月の豪雨災害の際は特に小坂地域はひどく、私も消防団として出動しましたが、地域の方は大変苦勞しました。人口が少ない地域ですので80代のおばあさんが自分の家の泥を掻き出さないといけないという状況下で、消防団も人数が限られた中で復旧活動に関わるという姿を子どもたちは見ております。私も消防団に入る前は専門性がある仕事なので警察や消防署でやることだという考えしかありませんでしたが、地域の安全は地域で守るということ、そのために消防団が存在することを小・中学生のうちに学んでもらうことでいつか地域に帰った時に地域に寄与するような人になり、また地域外へ出ていった時でも、自分の身は自分で守るということの根幹があるのかなと思います。まとめますと、新しくやることとともに今あるものをうまく大人と子どもと共有していくということがコミュニティ・スクールや地域学校協働活動の根幹にあるのかなと思います。

○山内市長

ありがとうございました。ギガスクール、修学旅行、地域の活動についてしっかり守り子どもたちに伝えるというお話を頂きました。野尻課長、いかがでしょうか。

○野尻学校教育課長

今お話し頂いたギガスクール構想について、子どもたちを健康被害からどのように守るかというとてもありがたい視点を与えて頂きました。以前の教育委員会や6月議会の一般質問の答弁でも教育長がお答えしましたが、休校中にタブレットを活用したオンライン授業を実施したところ、多くの子どもたちがストレスを感じたという統計が出ており、こういったことも視点として我々は持たないといけないということ校長会等でも話をしております。また、視力と調光については年に1度学校薬剤師にお願いして学校の照度検査をしています。カーテンの必要性やモニターの場所等のアドバイスももらっていますので今後も続けていきたいと思えます。2点目は、地域の子どもの様子について、豪雨災害があった後の土日ですが小坂の長瀬地区で地域ボランティア活動がございまして、多くの教員も参加していましたが、中学生も何人も参加してました。ボランティアを体験することで彼らを感じるがあったと思います。「コロナと7月豪雨であなたたちは何を感じましたか」というところから生徒会宣言を作り市長に渡しました。やはりああいった振り返りの場を作ることが地域の一員として自分に何ができるのか、あるいは将来大人になった時に自分は何をしないといけないのかということに繋がるので、こういった機会を大切にしたい教育を今後も継続したいと思います。以上です。

○山内市長

ありがとうございました。消防団は今回の災害復興の中心となっており、子どもたちもしっかりと見ており、益田清風高等学校の生徒もボランティアとして参加しておりましたので消防団の活躍を見ていると思います。我々としても消防団出動時の報酬が県下でも最低ラインだというお話を頂きまして、今報酬の引き上げを行いました。現在消防団の人数も減少してきておりますが、我々市の職員が災害対応の際に一番頼りになったのが消防団のみなさんであり、子どもたちもよく感じてくれていると思いますので、三木委員もおっしゃるように、我々行政もしっかり守って引き継いでいかないといけないと思います。若いうちに消防団に入り、地域のために活躍することが我々の子や孫に伝わっていくよう当局としても取り組んでいきたいと思ひます。はい、細田教育長どうぞ。

○細田教育長

先程のICTの健康面に対する心配について、本日の読売新聞に74の自治体調査がございまして、デジタル教科書に不安があると回答した自治体が9割です。その中には健康面ということで視力・聴力とあります。そして、先日ショッキングな記事を見ましたが、デジタルの最先端にいるシドニーですが、今までデジタル教科書を使用してきましたが、一切やめて以前の紙の教科書に戻したということです。そこには文章を読み取る力がだんだん低下してきたと記載してありました。とはいえ、ICTを活用するということはこれからの社会になくしてはならないことだと思いますので、何を使うにしても光と影の面がございまして。三木委員がおっしゃるとおり受動的な立場である子どもたちなので、我々がしっかりと見極めて良さと課題を理解した上で指導していきたいと思ひます。

○山内市長

ありがとうございました。今は本も電子書籍を読んでいる姿を見ますが、自分たちが若い頃は小説を1冊購入し、その本を自分の財産として持ち、何回も読み返して文章の読解能力を養ってきました。やはり電子書籍ですとさっと流れていってしまい、なかなか頭の中に残っていないのかなと思ひますが、これからは電子書籍が主流になってくると思ひます。ちょうど過渡期ということもありますが、学校側としても研究して頂ければと思ひます。それでは、細江委員お願いします。

○細江委員

私も市長と教育長と同じ年です。幸い血圧は正常ですが血糖値が高く薬を服用しております。2、3年前に以前教育主事を務めていらした横井先生がPTA総会で「コミュニティ・スクールは社会教育である」と宣言したことを鮮明に覚えております。まさしくそうだと思います。私も社会教育を10年ほどやっております、地域・家庭・学校を繋いで協働で子どもを育てるといことは社会教育の原点です。なぜコミュニティ・スクールがここ数年このように言われてきたかと考えますと、名前については10年くらい前からありまして、3、4年前から国は都会で地域と学校があまり密接な関係でないところにやらせるためにガイドラインを作り実施するよう働きかけてきましたが、下呂では20年前から社会教育主事の先生方や各地域がいろいろなことをやっています。ですから、今更新しいことをやる必要な全くなく

て、それぞれの組織が単独でやっていたことを連携してやっていくことが目標だと思います。公民館活動、子ども会活動、ジュニアリーダー、ふるさとや伝統文化を守る活動などが、少子化もあり下火になっています。そこで、郷土愛をもつことを地域学校協働活動を通して教える必要があると思います。その中の問題として、中学生は部活等でなかなか時間が取れないため、新しい活動をするのは難しい状況です。中学生はできたら社会人の中に混ざって活動をする機会を増やすとよいのではと思います。例えば地域ボランティアです。大人と触れ合いながら社会勉強をしていく行事が増えていくとよいと思います。以上です。

○山内市長

ありがとうございます。コミュニティ・スクールをどのようにしていくかということですが、今おっしゃったように郷土愛を子どもたちにもたせることは大事なことでと思います。下呂市はもちろん全国的にそうですが、人口減少問題は大きな課題でございますので、将来の下呂を託す子どもたちが離れていってしまうのではなく、こういった組織や取組みを活かしながら地域との関わりをしっかりとって将来帰ってくるという郷土愛を育てて頂くということは非常に大切なことだと思います。市長公室長、いかがでしょうか。

○野村市長公室長

やはり元気な地域とは、地域のことを思うことができる子どもが育ち、その子どもたちが戻ることができる地域だと思います。そういったことを進めるにはやはり学校だけでは大変だと思いますので、先程三木委員がおっしゃった消防団のように、地域の大人たちがよい見本となり、体験してもらいながら子どもたちを育てることができればよいなと思います。私たちもそういった地域づくりができるよう工夫して参りたいと思います。

○山内市長

ありがとうございます。社会教育と学校教育と現在は担当部署が異なります。その点についても組織再編として一緒に見直しています。以前は教育委員会の中にございましたが、現在は市長公室で社会教育をやっていることが果たしてよいのかということも議論しております。細江委員がおっしゃるように、学校教育の中で社会教育も育てていくということになると、検討を要する部分もあるかなと思います。その点についてもしっかりと検討していきたいです。それでは、最後に富永委員、お願いします。

○富永委員

減塩について、うちは3人家族ですが3人中2人が高血圧の薬を飲んでおります。その2人が薬を飲んでいけば大丈夫という認識があり、知識不足からギリギリのところまでいかないと気を付けないところがあります。孫も3歳児健診で引っ掛かり、そうするとやはり情報やPRが大事だなと思いました。その時にはじめて3歳の子でもそういうことがあるのだなと知りました。体験してどれくらいの塩分かということを知らないと塩分濃度が濃いかわかるか薄いかわかるかわからないので、多方面から刺激をして何度も繰り返しながら教えてほしいです。例えば、地域の方々と作った田んぼで育てたお米をおにぎりにして食べる際に、減塩と組み合

わせて行うなど、何度も繰り返し言わないと根付いていかないかなということを実体験で感じました。娘が孫をうちに預けた時、おじいちゃんがファストフード店に連れて行ったため怒られていました。行った時には「塩をかけないでください」と頼むことができるということを知って教えてもらいましたが、情報を知らないことは恐ろしいことだなと思いました。

昨日行われた児童館運営委員会に出席させていただきましたが、金山の児童館の方々がとても工夫しているなと思いました。児童館の窓をキャラクター等で飾り付け、開館になる時に来てもらえるようにアピールしたり、4校合同のお祭りや「かなやま祭」を合わせた時になるべく外に出るとしたら筋骨めぐりがよいのではという話になり、子どもたちを引き寄せるために「鬼滅筋骨」を行ったようですが、このように情報を発信してみんなを取り込むということが全てのことに言えるなと思いました。ですので、情報をどんどん発信して頂きたいなと感じました。減塩の取組み等を地域、学校、児童館等、一本の筋で活動するのではなく網目のように繋げてコーディネートするのが古田先生ですが、古田先生のようなコーディネーターがいらっしゃることを知らない方もいるので、そういった情報発信が大切だと思います。

○山内市長

ありがとうございました。自分の父方は京都出身で薄味なので、妻と結婚した時はとても濃い味だなと思いました。その妻とずっと大垣市で暮らしておりましたが昨年下呂に来た際に妻が「味が濃い」と言っておりますのでやはり濃いのかなと感じております。

物事を複合的に絡めてPRしていくということは大事だということは富永委員のおっしゃるとおりだと思います。自分の知る限り下呂は奥ゆかしい方が多いので、情報をどんどん発信するということが得意ではないのかなと思いますが、今はどんどん発信するようにはなっております。また、市民活動推進課はいろいろなジャンルで地域と関わりますが、課が非常に小さいです。市民の皆様方と一番身近な接点のある課なのでもう少しボリュームアップしていく必要があるかなと考えています。例えば、部のようになればいろいろな部署との絡みが可能となります。現在は1つの課でやっておりますのでなかなか他部との協働を推進することが難しいと思います。その点もバックアップしていきたいなと考えております。だいぶ時間も押してきましたが、皆さんのお手元にあります「下呂市教育大綱の具現化に向けた取組み」を一覧にしたものがあるかと思いますが、この中の施策に対するご意見や、その他の教育大綱全般に向けた思い等ございましたら発言頂けたらと思います。細江委員、どうぞ。

○細江委員

社会体育施設のトイレ洋式化についてですが、教育大綱策定に向けて検討した際「公の施設の見直しの中で、社会体育施設のトイレ洋式化を計画的に進めます。」という文章は含まれていませんでした。あさぎり体育館については小中高生、市内外の多くの方が利用し公式的な大会も開催されています。そういった施設のトイレが洋式化されていないということはいけないのではないかとということと、サンビレッジやリバーサイドは利用者も多く、毎日100人前後の方が利用し、年齢層も保育園児から高齢の方、中には足が悪い方もいる中でトイレが洋式ではないということは非常に不自由を感じています。保育園児がいるご家庭のほとんどはトイレが洋式です。なかなか慣れない和式では子どもたちも大変だなと思いましたので、まずはもっ

てあさぎり体育館、サンビレッジ、リバーサイドの3施設のトイレを洋式化することを検討してくださいということでこの一文が付け加えられました。その背景がありながら南部体育館のトイレ洋式化が先に行われるということが非常に悔しいなという思いがあります。

○山内市長

ありがとうございます。トイレの洋式化については自分も下呂市にきて真っ先に思いました。全て洋式化しないとだめだということで順次進めていきたいと思いますが、細江委員がおっしゃいました3施設が含まれていないということは大きな問題ですので、現在予算がコロナの関係で非常に厳しい財政状況で大変苦慮しておりますが、トイレの洋式化については強く推進していきたいと考えております。社会体育施設の後は公園のトイレ洋式化も是非とも実施していきたいと考えております。やはり市の民度がわかる部分だと思っておりますのでしっかりとやっていきたいと思っております。この南部体育館のトイレ洋式化については、西上田区から強く要望がありました。令和3年度予算はどうなっていますか。

○大池企画課長

令和3年度の予算は協議中です。

○山内市長

トイレ1つを洋式化するのに30万~40万円ほどですので実施していくように言っております。あさぎり体育館のように他市から来た方が使用する施設については、トイレの洋式化を積極的に推進したいと思っておりますのでよろしく願いいたします。野村公室長、どうぞ。

○野村市長公室長

あさぎり体育館のトイレについては、ウォシュレット付きの洋式トイレがいくつかあったかと思っております。

○山内市長

そうですね。また確認させていただきますが和式が残っているようであればしっかりと対応したいと思います。その他いかがでしょうか。河尻委員、どうぞ。

○河尻委員

配布資料（下呂市教育大綱（R元~R3）の具現化に向けた取組み）の1ページに「先生が指導力を十分に発揮でき、子どもたちが生き生きと学べるような学習環境の整備を進めるための予算措置に努めます。」とありますが、この大綱ができたころは今のようなコロナ対策が必要になるということはわからない時期だったので、今の日常生活ですと先生たちは通常でも役割が多く大変なところに、さらにコロナ対策が上乘せされています。学校によってはボランティアの方に検温や消毒をお願いしているところもありますが、校舎の中で先生方がやらないといけないことも増えてきているので、先生の数急に増やすということは難しいことだと思いますが、先生以外でもできる事をする人を増やして、先生が指導力を十分に発揮でき

る環境を整えることが子どもにもよいことですし先生方も集中できると思います。コロナ対策を含めて先生以外でもできることに対して人員補充していただけるとよいと思います。

○野尻学校教育課長

今おっしゃられたことは自分たちも肝に銘じていて、来年度スクールサポートスタッフという役割の方々を配置するという事で予算要求しております。コロナ対策以外にも先生方の業務は非常に多様化しておりますので、プリント印刷や教材作成等も手伝って頂くことを考えています。

○河尻委員

たくさん配置していただけますか。

○野尻学校教育課長

はい、30数名分予算要求しております。

○山内市長

その点はしっかりと配慮したいと思います。間違いなく学校の先生方の負担が大きいということは承知しております。そのため子どもたちの面倒を十分にみることができないなど弊害が出ていることもありますし、病気やストレスでお休みになる先生もいるということは非常に心配ですので、我々もしっかりとサポートしていきたいと思います。時間もだいぶ迫ってきましたが、どうしてもというご意見がありましたらお伺いさせていただきますが、個別にでも結構ですので事務局にいろいろなご意見を頂ければと思います。よろしいでしょうか。

ありがとうございました。それでは、1時間あっという間でしたが、終了時間も迫ってきましたので最後に教育長に閉めて頂ければと思います。

○細田教育長

貴重なご意見をありがとうございました。今後のご意見を頂きまして、より良い下呂市の教育を目指していきたいと思います。ありがとうございました。

○山内市長

ありがとうございました。それでは最後に事務局にお返しします。

○大池企画課長

ありがとうございました。以上で議題は終了しましたが、積極的なご意見ありがとうございました。それでは「その他」でございますが、ご連絡等ございますか。それでは何かございましたら事務局までお願いします。それでは、以上をもちまして令和2年度下呂市総合教育会議を終了させていただきます。ありがとうございました。

16時00分終了